空間コードから共創する中川運河
――「名古屋の大静脈」の未来

竹中克行

空間コードとは

- ▣ 時の断面から地域の持続的文脈を可視化する言語
- ▣ 「らしさ」を継承・進化させるためのコミュニケーションツール
- ▣ 自ら造花を並べるのではなく，人々に種を蒔いてもらうための苗床のデザイン

装幀：クレメンス・メッツラー

空間コードの考え方

❶都市のランドスケープ

- ▣ 土地と人の関わりがつくる都市の「不易」
- ▣ 「百年の計」を立てる都市計画・土木事業
- ▣ 災害に強いしなやかさを生み出す土地利用

【文献】武内和彦『ランドスケープエコロジー』朝倉書店,2006 年.

空間コードの考え方

❷「らしさ」を編集する人々

- ▣ ランドスケープを舞台とする町の役者
- ▣ 地域によって異なる当事者の顔ぶれ
- ▣ 関係性の空間を紡ぐ使いこなしの作法

【文献】高村学人『コモンズからの都市再生』ミネルヴァ書房，2012 年．

空間コードの考え方

❸視覚が触発するプライド

- ▣ 関係性を形や色として体現する景観
- ▣ 「それとわかる」眺めをつくる空間構成
- ▣ 視覚を通じて育つ都市アイデンティティ

【文献】小浦久子『まとまりの景観デザイン――形の規制誘導から関係性の作法へ』学芸出版社，2008 年.

空間コード研究の枠組み

理論

第 I 部　空間コードとは

第 II 部　中川運河を発見する

A
都市のセカンドネーチャー

B
共演する土木・緑・建築

C
時代を拓く市民のアリーナ

分析

第 III 部　中川運河の空間コード

A1
海に向かう都市の層

A2
閘門式運河の水面

A3
人工の自然堤防

A4
緑のコリドー

B1
運河を挟んで向き合う

B2
インダストリアル空間

B3
鳥と風が運ぶ都市の緑

B4
連続体の美学

C1
名古屋の大静脈

C2
インタラクトする水土

C3
「自然」とのつきあい

C4
創造力の空間

データから発見する

第 IV 部　空間コードを発見する技

中川運河の隣人

運河に生える自然

運河景観の定点観測

蘇る運河建築

応用

第 V 部　空間コードの応用

ワークショップとフィールドワーク

プロジェクト研究

中川運河コンペ　など

C1 名古屋の大静脈
——「水縁」から生まれたビジーな町

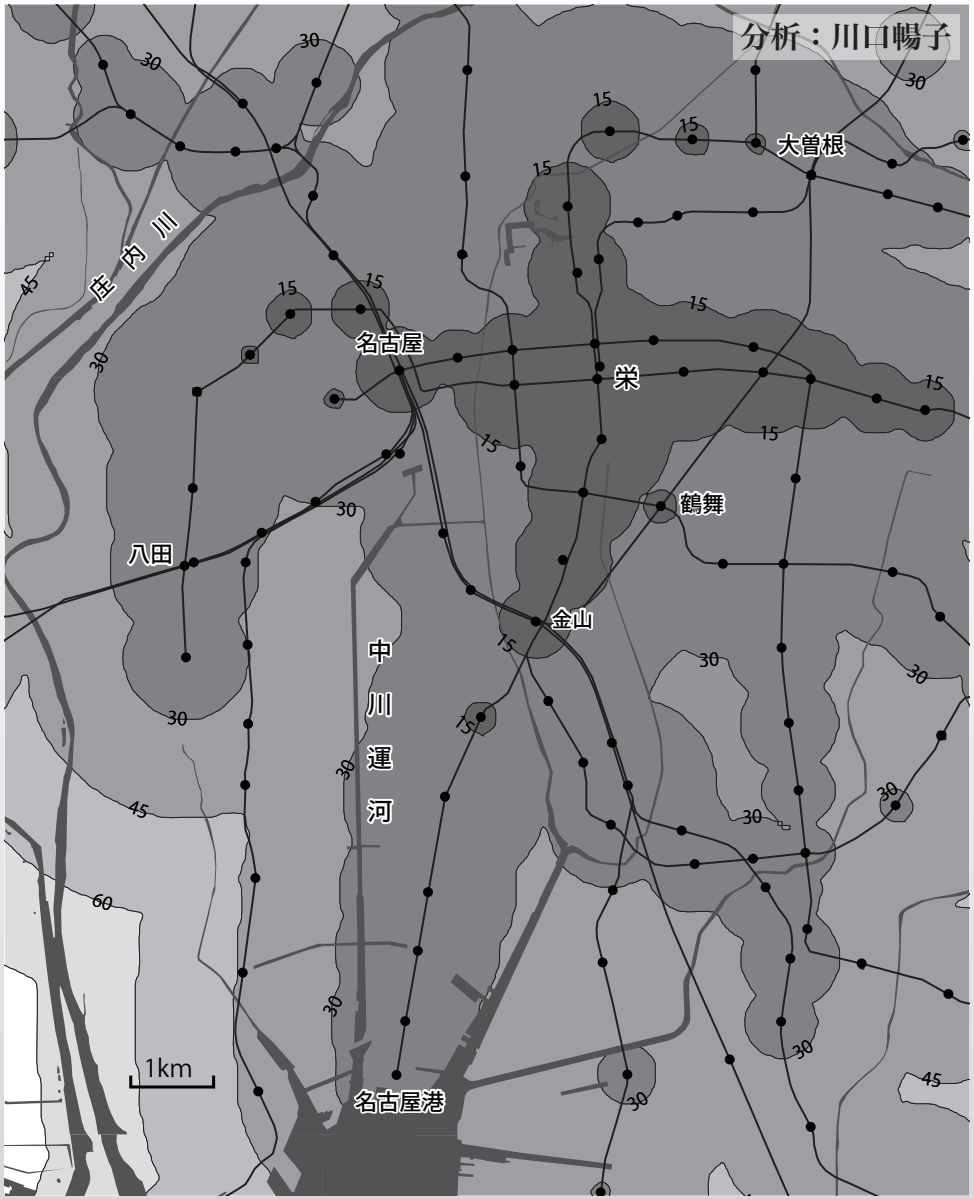


図１　地下鉄・栄駅を起点とする等時間曲線

都心と港の間の「郊外」

■交通体系の逆説

水運の軸からトラック輸送の軸へ

公共交通から取り残された「半島」

■「青い郊外」の出現

郊外型の小売・サービス店立地

運河と結ばれた住工混在地域の形成

⇒ これからの中川運河にふさわしい交通とは？

C1 名古屋の大静脈
――「水縁」から生まれたビジーな町

図２　上の宮と下の宮の祭り

「水縁」が紡いだ町

■「よそ者」のフロンティア

佐久島，篠島，三河，関東・・・

運河に生活の糧を求めた地域共同体

■都心と港を繋ぐ祭り

祭りを通じた氏子の交流

仕事場・生活場としての水面

⇒ 新しい水縁がだれがつくるのか？
その目標は？

C1 名古屋の大静脈
――「水縁」から生まれたビジーな町

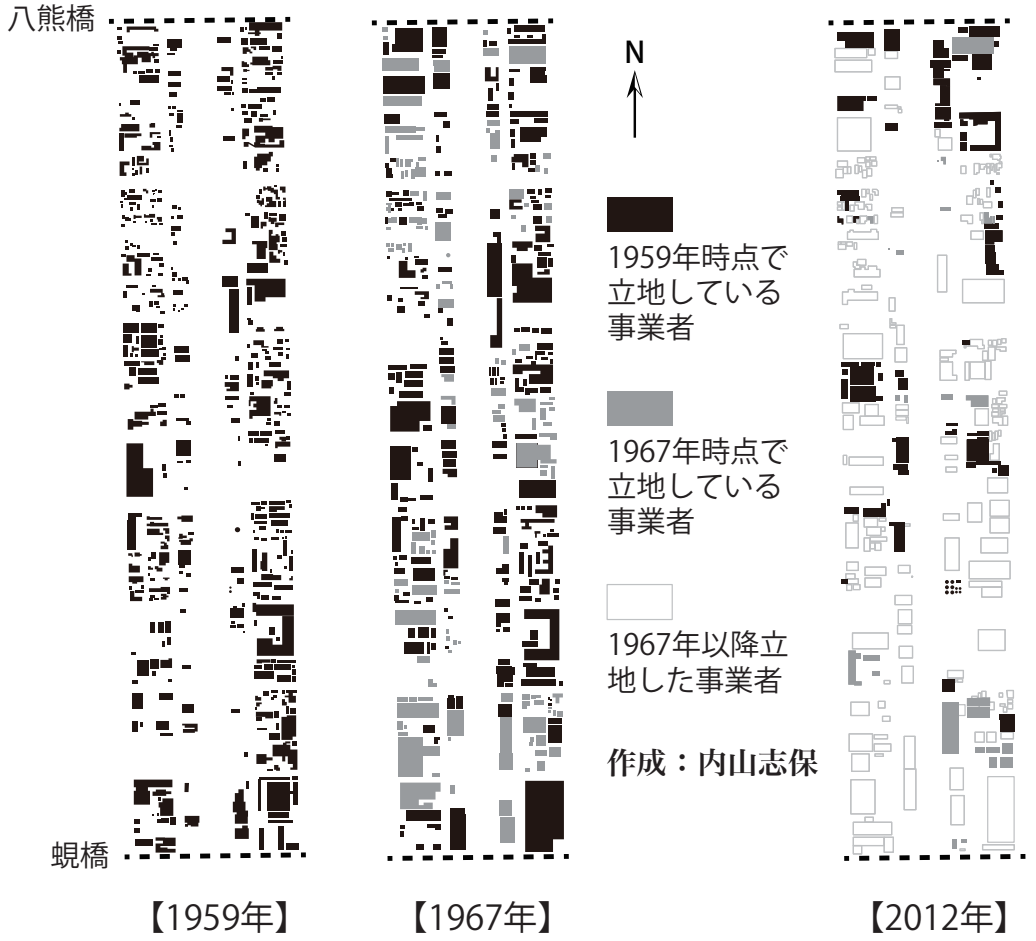


図 3　運河河岸における事業所立地の変遷

モザイク化する町

■運河のインフラ機能衰退

公共物揚場の縮小・放棄

運河側の扉を閉ざす倉庫

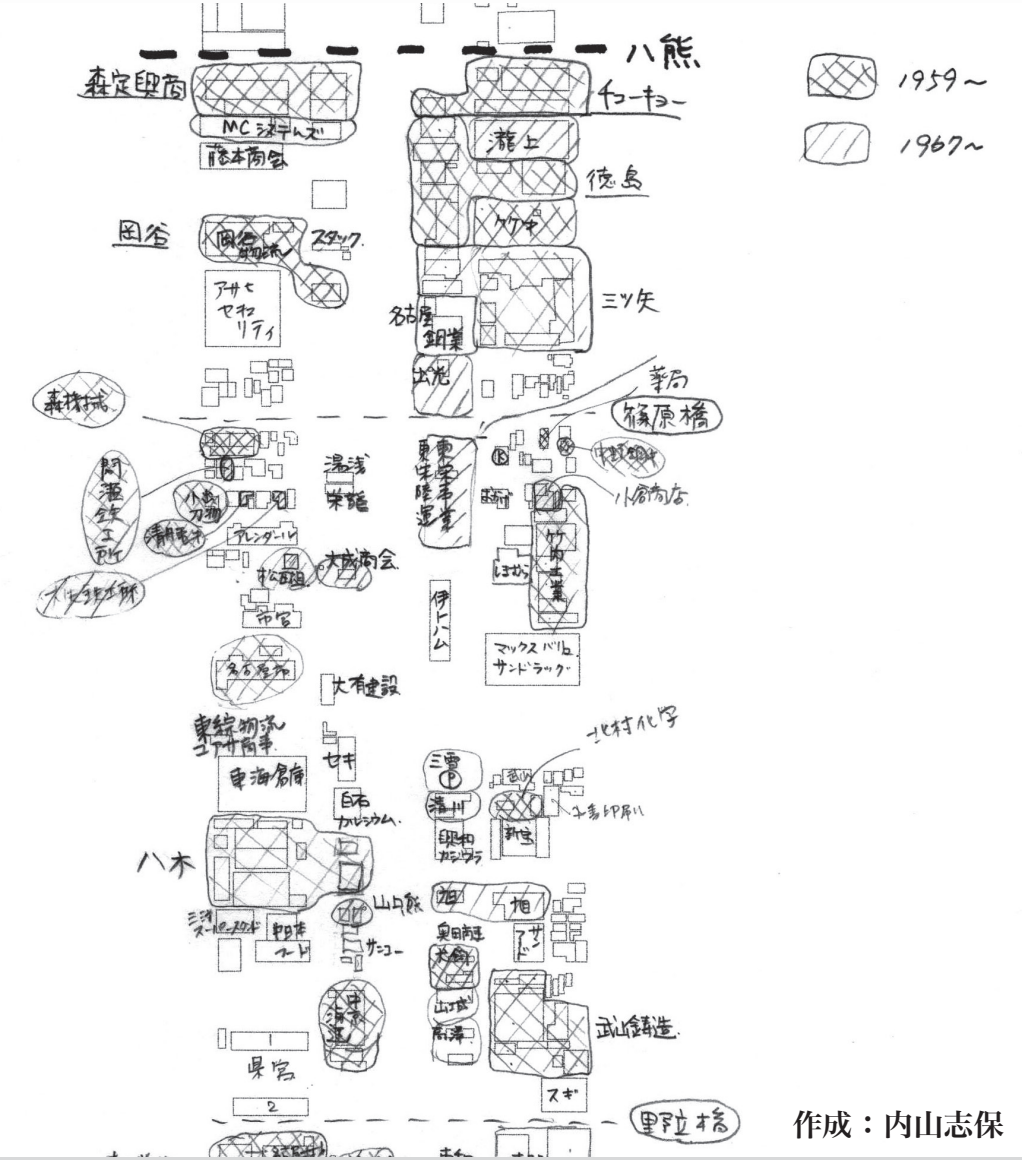
■道路を挟む土地利用変化

建築敷地に進出する住宅・店舗

水縁で繋がった町の分解？

⇒ 道路を挟んだ土地利用の連携を推進できないか？

C1 名古屋の大静脈
――「水縁」から生まれたビジーな町



作成：内山志保

図４　中川運河の隣人

運河の地色を重ねる

■一貫する土地管理システム

商品化プロセスを免れた土地

現在に存続する稀有な町中産業

■名古屋のビジーな「大静脈」

リサイクル，ニッチ，高付加価値･･･

ものづくり都市・名古屋の底力

⇒ これからの「大静脈」にふさわしい経済活動とは？

関連するその他の空間コード

A3　人工の自然堤防

B1　運河を挟んで向き合う

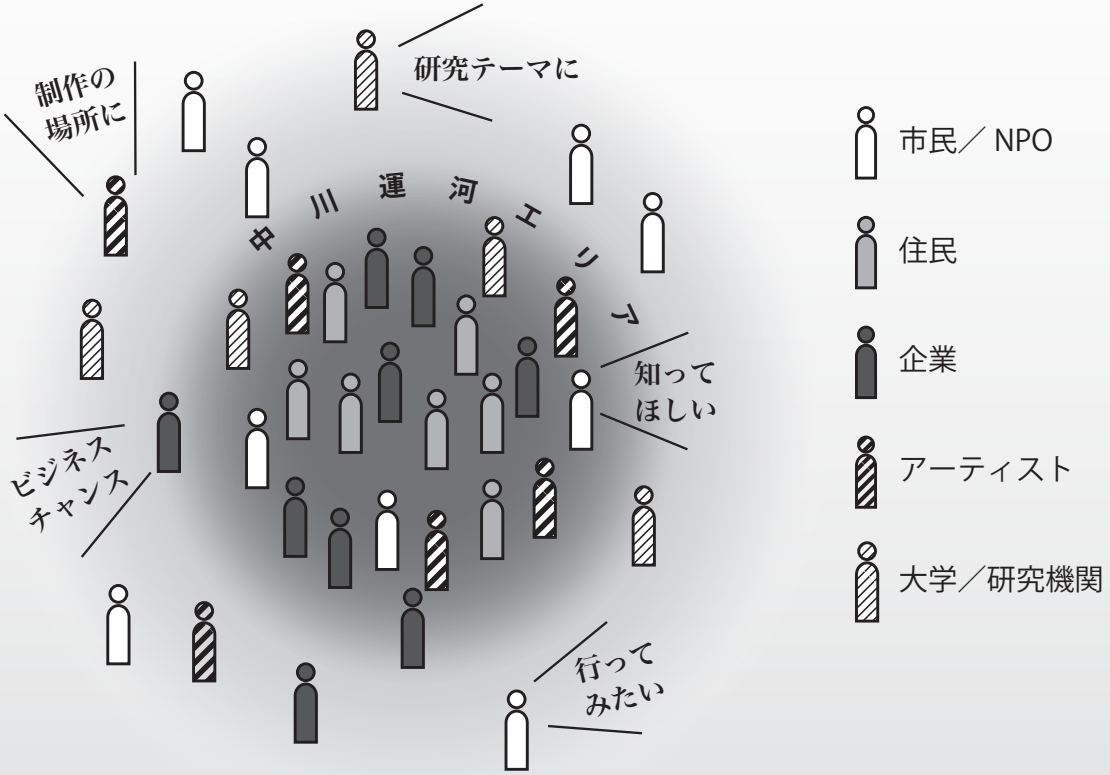
B2　インダストリアル空間

C2　インタラクトする水土

・・・

共創の実践に向けて

――いくつかの選択肢



作成：内山志保

■ 「らしさ」のデザイン

アイデアの引出しとしての有用性

■ デザイン基準の協議

異なる空間ユニット間の関係調整

■ 都市デザインのコンペ

グローバルな発想へのローカル知の統合

■ 地域発信の拠点づくり

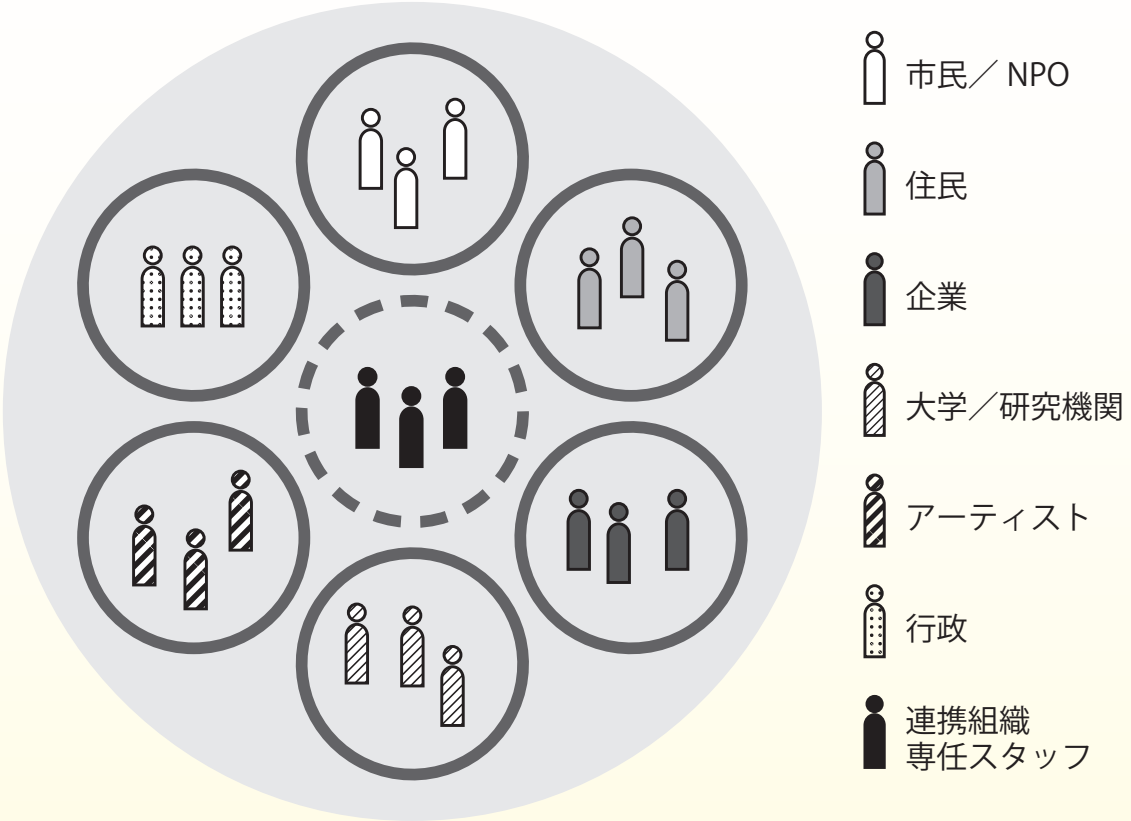
市民団体の探求活動を支える共通言語

■ 行政計画の活用

継続的マネジメントのためのツール

川口暢子・竹中克行

共創の実践に向けて
――新しい公共圏の模索



作成：内山志保

■ 産官学民の連携組織

都市政策推進のための専門性

地域・社会が認知する代表性

アーバンデザインセンターの実例

■ 研究実践として

≪都市コミュニケーション研究所≫

空間コードの方法論の深化

空間コードの表現法の開発

空間コードの有効性の検証

＊動機づけのための基盤知識

＊グローバルフローとの接合

＊研究成果の国際発信

中川運河オープンディスカッション

空間コード研究は，中川運河のなりたちと未来に関心を寄せる異分野交流の研究プロジェクトとして始まりました。自然の川とも海に開かれた外港とも異なる雰囲気を肌で感じ，そこでの人々の営みを繙くことで，中川運河の「らしさ」を未来に継承したいという思いが私たちの活動を支えてきました。

しかし，都市とは，過去が遺したものを鑑賞する博物館のような場所ではありません。変化しながら深まる個性こそに，生きた町の魅力があります。場所の来歴から今を生きる人々にとっての資産を見つけ出し，将来に繋ぐこと。そうした所業は，研究に携わる者だけでなく，町とかかわる意思を有する多くの人々の発想力をもって成し遂げられるものです。

オープンディスカッションでは，空間コード研究チームが見つけ出した中川運河の「らしさ」を紹介します。そして，それをヒントとしながら，運河に主体的にかかわる人たちの間でアイデアを出し合い，これからの中川運河にふさわしい使い方とつきあいの作法を見つけ出します。毎回，テーマとスピーカーを変えながら議論を重ね，中川運河に関心を寄せるすべての人々に向けて，得られた成果をフィードバックするよう努めていきます。

終